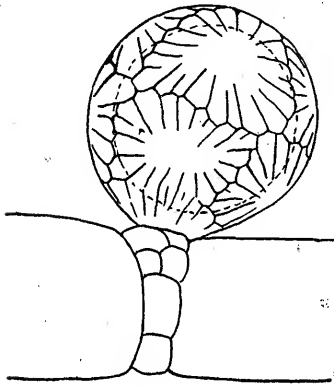


○ 車軸藻類ノート (2) (加崎英男) Hideo KASAKI: Miscellany on Charophyta (2).

3. ホシツリモの雄器の発見 On the antheridium of *Nitellopsis* in Japan

Nitellopsis は特異な越冬芽である stars をもち、通常はもっぱらこれにより栄養生殖が行われているためか、有性生殖器官である生卵器、藏精器の形成は極めて稀である。筆者は芦の湖で、これも 2 年越しで未熟生卵器をもつ 1 個体を漸く発見して以来、fertile の個体を求めつづけて来たが、その後河口湖で可成り成熟した生卵器を得たのみで (本誌 32 (4): 125)、雄器については遂に見出されぬまま今日に至つた。

Nitellopsis の産地としては、その後芦の湖、河口湖・山中湖に次いで、32 年秋更に野尻湖を新に加え得たが、この際得られた材料も同様 sterile であつた。したがって、わが国の



Nitellopsis の雄器 ×30.

Nitellopsis は ♀ 器のみしか作らず、Parthenogenesis でも行なっているのではないかとの想像さえせざるを得ない状態にあつたのである。

所で本年秋、更に野尻湖の植生を再検討すべく調査を行なった所、9 月 22 日大房剛、大西一博両君の採集した材料の中より雄器をつけた個体を発見し、漸くこの疑問も解決できた。雄器は図のような形状で、輪生小枝の何れの node にもつき、単生で内向きである。直径は 1000~1050 μ 内外もあり、他の多くの *Chara*, *Nitella* が 300 μ 前後、特に大きな種類でも *Nitella flexilis* で 600 μ , *Chara corallina* で 700 μ 迄であることと比較する時、如何に大きなものであるかがうかがえる。

雄器の node とのつき方が直接的で、柄細胞をもたないことは注目すべき点であるが、この点を含めて細部の形態的な問題は目下検討中なので稿を改めたい。何れにしてもこの材料は、雄器の形状、大きさからやはり *Nitellopsis obtusa* の記載と一致するように思える。(東京都立大学理学部生物学教室)

○ オクエゾサイシン (水島 正美) Masami MIZUSHIMA: On *Asiasarum heterotropoides* F. Mack.

菊地政雄氏の報文 (八幡平調査研究, 第 1 報, 1952 年) により、本種が陸中への入幡平 (ハチマンタイ) まで南下していたことが明確になった。これは前川教授が説かれた頃の資料 (本誌 24 卷 92-93 頁, 1949 年) たる「津軽半島の一部に達している」事実より南の産地である。同半島は 40°50' N から 41°16' N に亘り、菊地氏の採集地は 39°57' N に当る。小生は 1956 年に同じく陸中の岩手郡鳥帽子嶺—三角山 (ミカドヤ